

久慈農業改良普及センターだより



普及センター情報 206号

平成21年2月25日発行 久慈農業改良普及センター

TEL: 0194-53-4989 FAX: 0194-53-5009

e-mail: ce0026@pref. iwate. jp

～お知らせ～

普及センターホームページが移転しました。検索画面にて..

久慈農業改良普及センター 公式

検索

○久慈地方4Hクラブ 見事！ 活動ビデオ発表で最優秀賞！！○ ～アグリネットワーク 2008 青年の集い～

1月29日～30日に、岩手県農村青年クラブ連絡協議会主催の「アグリネットワーク 2008 青年の集い」が盛岡市つなぎのホテル紫苑を会場に開催されました。本大会は(社)岩手県農業公社の担い手育成基金を活用し、地域農業の課題や経営課題の解決に取り組んだ研究成果の発表、そして自分の夢や目標を述べる意見発表を行いました。県北および県南の各ブロックの代表となった6つの研究グループおよび3人の意見発表が行われ、研究グループでは岩泉町の



参加者全員で写真撮影

岩泉ET研究会が、意見発表では奥州市の岩崎澄人さんがそれぞれ最優秀賞となりました。また、昨年度に引き続き、青年クラブ独自で作成したビデオでクラブ活動を紹介する「農業青年クラブ活動紹介ビデオ発表」も行われました。当地方からも「久慈地方4Hクラブ」として上映し、その結果見事、最優秀賞に輝きました。参加したクラブ員は他地域のクラブ員と交流を深めるとともに、今後のクラブおよび地域での活動について考える良い機会となったようです。なお、今回発表した久慈地方4Hクラブ活動紹介ビデオは2月25日開催の「久慈地方農産漁村活性化フォーラム」の中でも上映され、好評でした。

○ 新たな農地活用に放牧を ○ ～簡易放牧の推進に向けて先進地事例を研修～

近年、県内で転作田や低・未利用地における電気牧柵を利用した放牧が急速に普及し、自給飼料の増産や飼養管理の省力化を図る有効な対策として期待されてきています。

今年度久慈地域でも、その有効性を確認するため実証圃を2箇所展示し、また肉用牛繁殖農家を対象に研修会を行い、地域内での利用啓発・普及を図ってきました。

今後さらなる普及推進を図ることを目的に、さる1月27日「簡易放牧の推進に向けた研修会」を開催しました。より地域内への広がりを作っていくため、対象を畜産関係者だけでなく、市町村農政担当課・農業委員に広げ、農業委員13名を含む参加者30名で実施しました。

研修会では県内の先進地である一関地域のJA、農業委員会、普及センターの方々を招き、JAの方からは肉用牛振興の立場からの放牧の利用推進、農業委員会の方からは遊休農地の利用に向けた農業委員の役割、普及センターからは一関地域での推進体制についてを発表していただき、その後意見交換を実施しました。事例発表では地域内の転作田や遊休農地の増加を畜産で活用できるという考えを、それぞれの立場で理解し一体となって取り組んだことが発表されました。

参加者からは、「水田での放牧は草が足りなくならないか」「久慈地域は熊への対策として電気牧柵は普及している地域であるから、対応はしやすいのではないか」等意見が出されました。今後農地活用の一手法として、簡易放牧がさらに普及していくことが期待されます。



熱心に聞き入る参加者

○久慈地方のエコチャレンジ米、間もなく始動です○

久慈地方の米生産は、これまで安定生産や品質向上を優先課題として取り組まれてきました。しかし、当地方においても「特徴ある米づくり」をいっそう推進するため、1月22日、JA新いわて久慈営農経済センターを会場に、21年産の「エコチャレンジ米」栽培説明会が開催されました。「エコチャレンジ米」は当地方の米が取引されている首都圏の生協の独自認証基準です（農薬・化学肥料が地域慣行1/2以下、優先排除農薬の不使用等）。

農協と普及センターから、今年度実施した実証結果と、エコチャレンジ米の推進方向や栽培体系と注意点を説明しました。当地方では初めての温湯消毒や、使用資材の制限に対する病害虫発生や収量性に多くの質問があり、栽培者は真剣に聞き入っていました。

3月の栽培講習会を皮切りに、研修会や情報交換会の開催等、生産が軌道に乗るよう、農協と連携しながら普及センターでは支援を行っていきます。



説明会の様子

○ 技術情報 ○

～農業研究センターで開発された新技術～

今年度、県農業研究センターで開発された技術です。この誌面では要約のみの記載となりますので、詳細は農業研究センターホームページ（<http://www.pref.iwate.jp/~hp2088/>）、もしくはいわてアグリベンチャーネット（<http://i-agri.net/agri/>）で確認して下さい。

◆◆ 野菜 ◆◆

○ホウレンソウ萎凋病に対するクロルピクリン錠剤の低薬量処理法

クロルピクリン錠剤を使用して土壌消毒をする際、被覆用ビニールに難透過性フィルム（商品名：バリアスター）を使用することで薬剤量を2割減らしても慣行と同等の防除効果が期待できます（30坪あたり約2000円の薬剤費が減らせます）。

○ほうれんそうに寄生する新種のアシタバエが見つっています

岩手にはこれまでナスアシタバエがいましたが、昨年アシタバエとトマトアシタバエとアシタバエが新しく確認されました。両アシタバエとも加害作物の種類が多く、アシタバエはほうれんそうにも加害します。また、従来のナスアシタバエと比べ効果のある農薬が限られるので、対処を誤ると被害が急激に広がる恐れもあります。もしハウスでアシタバエの被害を見つけたら、その年の冬はハウスビニールを剥がして殺虫しましょう（寒冷地では野外越冬できないと考えられています）。

◆◆ 花卉 ◆◆

○9～10月咲き小ぎくの定植時期について

久慈管内の9～10月咲き小ぎくは5月下旬にまとめて定植していますが、品種によっては草丈が長くなりすぎ、管理しにくく品質も低下しているのがみられます。

定植期を慣行より10～30日遅くすることで1m程度の適正な切り花長となり、品種によっては草姿も改善されます。（好適な定植期は品種によって異なりますので注意してください）